

「最初の1件」に使える 発信・出品・自己紹介 文例 10 選 — 勇気ではなく"判断"を渡すための実例集 —

このPDFは、「売るのが怖い人」を
無理に前に進ませるためのものではありません。

むしろ逆です。

怖いと感じている自分は、そのままでもいい。

ただし、

「どこまでなら出していいのか分からない状態」

だけは、ここで終わらせましょう、という意図で作っています。

多くの人は

書けないのではなく、判断できない。

これは発信に書いていいのか。

これは売り場に置いていいのか。

これは共感されるのか、それとも不安にさせるのか。

この線引きが曖昧なままだから

結局、何も出せなくなるんです。

だから、実際に

「最初の1件」が売れた文章を元に――

どの文が

発信向きなのか

出品文に使ったのか

あえて書かなかったのか

その"使われ方"ごと載せています。

うまく書こうとする必要はありません。

ただ、「このレベルなら出してよかったんだ」と

判断できるようになってください。

ここから先は、例文です。

自己紹介文① 共感スタート型

【使用場所：出品ページ・自己紹介欄】

正直に言うと、自信はありませんでした。

それでも、自分がつまずいてきた経験なら

今まさに悩んでいる人の役に立つかもしれないと思い、出品しました。

元々〇〇で悩んでいた自分だからこそ

同じ場所にいる方の力になれば嬉しいです。

この文章は「売り場」に実際に使われたものです。

ポイントは、不安を出しているけれど

「向き合う姿勢」までは引っ込めていないこと。

怖い、で終わらせず

だから出しました、まで書いています。

自己紹介文② 過去の自分へ手紙型

【使用場所：出品ページ】

これは、過去の自分に向けて書いています。

あの頃の自分が、喉から手が出るほど欲しかった考え方を

今の自分なりに形にしました。

同じような場所で立ち止まっている方に

届けばいいなと思っています。

感情は柔らかいですが

「何を提供しているか」がぼやけないラインで止めています。

売り場に置く場合

感情より先に"意図"が見えることが大切です。

発信文③ 不安の吐露型

【使用場所：SNS 発信のみ／売り場では使わない】

正直、売れるのが怖いです。

誰かに届くのも、怖いです。

でも、何も出さずに終わる後悔の方が嫌で

今日はこの投稿をしています。

これは共感を生む強い文章ですが

売り場には使っていません。

理由はシンプルで

買う側に「大丈夫かな？」という不安を渡すからです。

発信では OK。

出品文では NG。

この線引きが、とても大事です。

発信文④ 変化の記録型

【使用場所：SNS 発信】

1ヶ月前の自分なら

出品なんて考えられませんでした。

今も怖さはあります。

でも、「やってみた」と言える一步を、今日は踏みました。

これは「今の自分の位置」を共有する文章です。

売るためではなく

「人としての変化」を見せる目的で使われています。

発信文⑤ 一緒に挑戦型

【使用場所：発信のみ／出品ページでは使わない】

出品、やってみました。

正直、まだ怖いです。

でも、やってみたら少しだけ視界が変わりました。

同じところで止まっている人がいたら

一緒に一歩進めたら嬉しいです。

「一緒にやりましょう」という言葉は

発信では距離を縮めますが

売り場では関係性を曖昧にします。

なので、これは発信専用です。

発信文⑥ ストーリーベース型

【使用場所：出品ページ】

以前の私は、〇〇でずっと悩んでいました。

そこで△△という考え方に出会い

少しずつですが、行動が変わりました。

この商品には、そのプロセスをまとめています。

同じ悩みを抱えている方に、役立ててもらえたら嬉しいです。

感情は入っていますが

「何が入っている商品か」が明確。

売り場では、ここが最低ラインになります。

発信文⑦ 対話誘導型

【使用場所：出品ページ】

「これ、誰かに聞いてほしかった」

そんな声を何度かもらい、今回サービスという形にしました。

もし今、言葉にできないことがあるなら

ここで話してもらって大丈夫です。

売る側と買う側の立場は分かれています。

でも、距離は近い。

このバランスが、最初の1件では重要です。

発信文⑧ 短文・対象明確型

【使用場所：出品ページ】

話を聞いてほしい人へ。

気持ちを整理したい人へ。

答えより、共感が欲しい人へ。

このサービスは、そんな方のためのものです。

感情を語らなくても

対象が明確なら、安心して選ばれます。

発信文⑨ 宣言型

【使用場所：出品ページ】

初めての出品です。

まだ未熟ですが、真剣に向き合う覚悟だけはあります。

必要としている方に、誠実に届けます。

「未熟」は出していい。

「雑」は出してはいけない。

この違いを意識しています。

発信文⑩ 問いかけ型

【使用場所：発信のみ】

「これって売っていいのかな」

「誰かに届くのかな」

そんな不安を抱えたまま
今日は一步踏み出しました。

これは共感を生む発信です。

売り場には置かず
人との距離を縮めるために使われています。

おわりに

最初の1件は
勇気で取るものではありません。

「ここまでなら出していい」
その判断ができた人から、結果が出ます。

このPDFで渡したいのは
自信ではなく、判断基準。

もし今、あなたが
書けるのに止まっているなら。

それは才能の問題じゃありません。
線が見えていないだけ。

この例文たちは、その線を見つけるための材料です。
一文でも、参考になったら嬉しいです。

ここまで読んで「ズレてたかも」と感じたなら、
それはもう前に進めています。

必要なのは努力ではなく、方向の微調整。

実際にそのズレをどう見つけ、どう整えてきたのか。
その過程を、そのまま書いています。

note | 実体験ベースの言語化

<https://note.com/haruseiri>

ブログ | 考え方と設計

<https://sukiguide.com/>

ハル | 3日で反応が変わる AI 発信設計士